

『庄殺の海 第2章 辺野古』 109分

『高江―森が泣いている 1・2』 各63分

堀川 慶治 スタッフ

2016年 森の映画社

監督 藤本 幸久 影山あさ子

四日市出身の藤本監督が、昨年3本の映画を発表した。風雲急を告げる沖縄の現在(いま)を記録したドキュメンタリーである。辺野古はジュゴンの生息する貴重な珊瑚礁の海、高江は、ノグチゲラやヤンバルクイナの生息する貴重な山原の森、―この海を埋め立て、この森を無残にも切り開き、米軍海兵隊(本土の防衛が任務に含まれない外征専門部隊であることから海兵隊は「殴り込み部隊」とも渾名^{あだな}される。)―のための、訓練・出撃基地が造られつつある。つまり、イザという時日本を守るのでは無く、侵略・占領の尖兵となる部隊のための施設が、世界遺産級の貴重な自然を破壊して建設されようとしている。これに反対する沖縄の市民らによる抵

抗の現場を、体を張って記録し編集してヤマトンチューに知らせようとしているのだ。

先の2本の映画は、海上で、キャンプシユワブゲート前で、そして高江の森に通じる道路上で、戦いに次ぐ戦いがこれでもか、と映し出される。3本目は、ヤンバルの森の中の、オスプレイのためのヘリパットの工事現場や、工事車両・資材搬入のための道路建設現場(森の貴重な樹木を何万本も切り開き、舗装道路が縦横に張り巡らされた)とともに、貴重な動植物の映像も挟み込まれている。

残念ながら、ノグチゲラやヤンバルクイナの映像、有名になった大阪機動隊員の「こら、土人」や「くそシナ人め」発言も、収録されていない。“自分達で撮った映像しか提供さない”というプライドのせいと思われるが、支援者から提供された映像を含めて編集することで、より記録としての価値が高まると割り切って、使うべきだ、と藤本監督に言って来た。

ヘリパット工事は終了し、いよいよ辺野古の埋め立て工事が始まっている。反対運動の弱体化を狙って、代表の山城博治氏始め、逮捕者が相次いでいる。器物損壊罪(有刺鉄線切

断)という微罪で逮捕後、1年前のブロック積み上げで威力業務妨害罪で再逮捕・起訴し、未だに家族の面会も許されず、拘留されている。三重県の元高校教師、神奈川の現職牧師なども、所用で帰省したわずかの間に、わざわざ沖縄県警がやって来て、自宅で逮捕手錠・腰縄姿を見せつけながら、沖縄まで連行するなど、露骨な運動つぶしが始まった。

次作は「沖縄の未来(みち)」という表題で撮影が始まった。当局にとって最も目障りな存在(記録)となっている藤本達。米トランプ政権と相俟って、不当逮捕の危機にある。無事を祈りつつ筆を置く。



ヤンバルクイナ